



昨年 2024 年、1 年間のリチウムイオン電池の事故件数が過去最多となりました。事故が増えるのはまさに 6 月から 8 月、気温が高くなる夏場です。近年利用が広まっている小型のファンがついた作業服は、仕事でも、家の中でも夏場に使う人が多くなっていますが、事故の報告件数は増え、SNS 上では「バッテリーの調子が悪くて代替品を送ってもらったら発火」「作業中にバッテリーから発火、背中をやけどした」などの投稿が見られます。NITE（製品評価技術基盤機構）によると、リチウムイオン電池は熱や衝撃に弱い性質があり、その為に夏場に発火する可能性が多いとみられます。暑さ対策で使う人が増えている携帯用扇風機も、落下などの衝撃で内部のバッテリーが損傷している場合があります、思わぬ事故につながっています。

NITE によると、異常を感じた場合はまず大量の水で冷やすか、そのものを水没させてほしいということです。少しでもいつもより熱い・膨らんでいるという異常に気付いた場合は必ず使用を中止しましょう。

NITE（製品評価技術基盤機構）ホームページ

<https://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/press/2025fy/prs250626.html>

最後までお読みいただきありがとうございました。